

第 51 期日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修報告書

広島市立大学 国際学部 3 年 横山琉夏

2025 年 6 月

México Mágico

6 月末に最後のコースのテストが終わり、CEPE で受ける 5 コース全てが終了しました。CEPE で仲良くなつた外国人の子たちと、また世界のどこかで会おうと約束をしてお別れをしたり、CEPE の先生に「お世話になりました。」と挨拶をしたりしたことで、本当にあと 1 ヶ月で帰国するのかと実感がわいてきています。

Clase de arte mexicano

CEPE の最後のコースで、メキシコの歴史について作品を通じて学ぶ授業を履修しました。授業は、まず教室でテーマに沿つた歴史的背景や基礎知識を学び、その次の回に実際に博物館を訪れて作品を鑑賞しながら復習するという流れで進められました。この形式のおかげで、知識と実物が結びつき、より深く理解することができました。

授業では、特にメキシコで信仰されてきた神々のうち 10 柱について学びました。それぞれの神の役割や象徴、起源や由来、歴史的背景を知ることで、単なる神話としてではなく、その背後にある文化や社会の価値観にも触れることができました。そして、国立人類学博物館を訪れ、これらの神々を意味する彫刻や工芸品を実際に鑑賞しました。特に印象に残っているのは、アステカ神話の女神「Coatlicue (コアトリクエ)」と、農耕や再生を司る神「Xipe Totec (シペ・トテック)」です。

「Coatlicue (コアトリクエ)」は、アステカ文明で使われていたナワトル語で coat=蛇、licue=スカートであり、「蛇のスカートをまとう女」という意味を持ちます。この巨大な石像は、博物館の中でも圧倒的な存在感を放っていました。頭が蛇に置き換えられた造形や、体を覆う象徴的な装飾は、生命と死、破壊と再生の両面を表しています。

一方、「Xipe Totec (シペ・トテック)」は、農作物の循環と再生を象徴する神で、祭儀においては人々が皮を剥がれた姿を模した装いをするという、今を生きる私たちには理解しがたい文化的背景があります。博物館でその彫像を目にしたとき、教室で学んだ儀式の内容と結びつき、本当にそのような装いで行われていたのか、と再度驚きました。



私はこの博物館に以前も訪れたことがありましたが、授業を通じて事前に知識を得た上で再び訪れると、作品の一つひとつが単なる造形物ではなく、明確な意味や物語を持ったものとして鑑賞することができました。

この授業を通して、歴史や文化を学ぶ際には、知識を得ることと実物を見るこの両方が大切であることを改めて学びました。また、事前学習によって同じ作品でも見え方が大きく変わることを体験できたのは、非常に貴重な経験でした。



太陽の石

古代アステカのモノリス。

アステカの宇宙観、時間観、歴史観を表す石彫の造形物。

映画

2025年、メキシコシティではスタジオジブリ作品の上映が数多く行われていました。これは、ジブリのファンフェストや関連イベントの開催、そして世界各地で展開されている「Ghibli Fest」という再上映企画の流れがメキシコにも広がったことが主な理由です。街の複数の映画館や文化施設でジブリ作品が特集上映され、まるで小さな映画祭のような雰囲気が広がっていました。

その中で、私は CEPE の近くにある Cineteca Nacional (シネテカ・ナシオナル) という映画館を訪れました。ここはメキシコを代表する映画文化施設で、1974年に設立され、国内外の名作映画や芸術的な作品、ドキュメンタリーなどを幅広く上映しています。施設内には複数のスクリーン、映画資料の保存・研究センター、書店やカフェ、広々とした中庭などがあり、映画ファンが一日中過ごせる場所になっています。建物はモダンで開放的なデザインが特徴で、上映の合間に人々が中庭でくつろぎ、ゆったりとした時間が流れていきました。

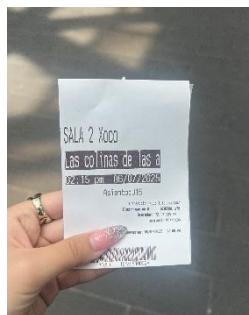


ここで私は、『かぐや姫の物語』と『コクリコ坂から』を鑑賞しました。どちらの上映も満席に近く、多くのメキシコ人がジブリ作品を楽しんでいました。正直なところ、私はジブリ映画がここまでメキシコで人気を集めているとは思っていなかったので、その光景に驚くと同時に嬉しさも感じました。観客は年齢層も幅広く、小さな子どもから大人までジブリ作品を楽しんでいました。

上映は日本語音声・スペイン語字幕で行われました。時折、字幕の翻訳では日本語のニュアンスが十分に伝わっていないのではないかと感じる場面もありました。特に『かぐや

姫の物語』は古典的で美しい日本語表現が多く、その言葉遣いが持つ情緒や細やかな感情の機微をスペイン語に置き換える難しさを改めて感じました。逆に、そのおかげで、日本語の言葉が持つ豊かさや深さを強く意識する機会にもなりました。

この経験を通して、文化や言語の違いが作品の受け取り方にどのような影響を与えるのかを実感しました。また、ジブリ作品の普遍的な魅力が国境や言語を越えて多くの人に届いていることも、現場で目の当たりにすることができました。



映画のチケット

映画は 70 ペソ（約 560 円）で見ることができるので、メキシコにいる間に多くの映画作品に触れることをおすすめします。

おわりに

CEPE ではすべてのテストに合格することができ、スペイン語を楽しく学ぶことができました。7月は、帰国まで自由に過ごせる一ヶ月なので、お世話になった人たちに会いに行ったり、行ったことのない場所に行ってみたりと、メキシコを惜しみなく満喫したいと思います。



6月の México Mágico

メキシコに来て初めて、メキシコ寿司を食べました。マンゴーやクリームチーズなど日本ではなかなかお寿司として食べないものがありましたが、食べてみると意外とおいしくて面白かったです。ですが、お寿司ではないですね…。